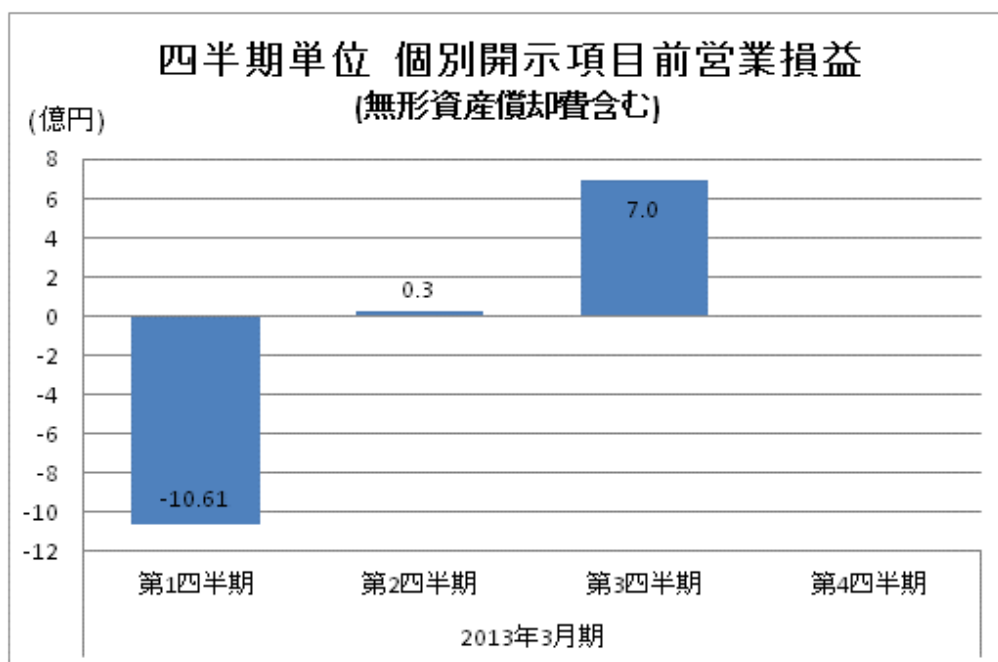


第3 四半期決算に関する主なご質問

2013.1.31.

Q: 10-12 月期の損益(営業利益・当期損益)が急悪化しているが、ということか?

A: この 10-12 月期に、リストラ関連の費用や設備停止に伴う減損をあわせて約 110 億円計上しました。これらの費用は、当社はIFRS会計基準を採用しており営業損益の中で計上しています(日本会計基準であれば特別損失として処理されます)。これらの費用を除外したベースの営業損益は、改善してきております。



上記の図は IFRS 会計基準で、個別開示項目(特別損失)を除外した営業損益の四半期ごとの推移を表しています。当社は、売上の 40%を占める欧州の景気後退により前年度の第 3 四半期に業績が悪化いたしました。その後リストラ施策を着実に実施し、業績の改善を図っております。

Q: 為替変動で円安になってきているが、損益計算書にどのように影響してくるか?

A: バランスシート(純資産の増)に大きく寄与します。損益計算書上では期間の平均レートを使用しており、急な変動があってもさほど影響はありません。

Q: 欧州建築市場における Q3 の価格状況について。

A: 価格状況は欧州内の個々の地域で差があります。平均値では Q2 に比べ改善しております。秋に値上げを行いました。

価格のピークは 10 月で、徐々に下落し 12 月には 10 月比△5%となっています。需要が冬季のスローな時期でもあり、大きな価格変動はなく通常の不需要期の価格軟化に留まると見込んでいます。

Q: 今期リストラ効果目標 50 億円の Q3 と Q4 での実現の内訳は？業績見通しで考えると Q4 に営業利益が 50 億円出ると考えられるが、Q4 に効果が多くでるのか？

A: 費用削減施策の効果は実施するにつれて徐々に増えております。通期で目標の 50 億円のリストラ効果達成は可能と見えています。

Q: 個別開示項目費用が 3Q までに約 210 億円計上されているが、通期の見通しは？

A: 第 4 四半期 3 ヶ月の個別開示項目はネットではほぼゼロを見込んでおり、年間では計画通り 210 億円になる予定です。

Q: ソーラー用ガラスの売上は Q3 末でどのような状態か？ 今後はどうなってくるのか？

A: 9 か月累計で前年比数量 35%ダウンしています。今後については、継続して減少するのではなく今の水準で推移していくと見込んでいます。

以上

注記: 上記は発表日現在お寄せいただいた主なお問い合わせと弊社見解です。